

2015 年度 特別支援教育フォーラム

2015 年 11 月 25 日
和歌山大学特別支援教育
コーディネーターフォーラム事務局
Info-seforum@center.wakayama-u.ac.jp

第 63 回コーディネーターフォーラムを開催

11 月 25 日（水）夜に、第 63 回和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラムが、和歌山大学会場、新宮会場、田辺会場、きのかわ会場の 4 会場をテレビ中継で結び開催されました。

今回は、田辺会場から和歌山大学 古井先生、和歌山県自閉症協会・和歌山県ペアレントメンター協会 大久保尚洋氏が、和歌山大学会場から和歌山県福祉保健部障害福祉課 赤松弘智氏が講演してくださいました。お忙しい中 48 名の方が、ご出席下さり、各会場と活発な意見交換がされました。

講演 テーマ

『和歌山県ペアレントメンター協会の活動と
障害のある子どもをもつ家庭が求める支援』

講 師：和歌山大学 教育学部 准教授 古井 克憲

障害児者の家族は「障害児者を支援するべき人」として捉えられ、さまざまな困難を抱えているにもかかわらず支援されていなかった。1990 年代から障害児者の家族支援の必要性がいわれ、2005 年に施行された発達障害者支援法第 3 条の 2 では「家族支援が行われるよう必要な措置を講じるもの」とされた。また、同法第 3 条 3 では「発達障害児の保護者の意思をできる限り尊重する」とされている。このような流れの中、発達障害児者の家族支援としてペアレントメンター事業が全国的に注目されている。

ペアレントメンターとは、自閉症など発達障害のある子どもを育てる先輩の親で、親の相談役になる人のことである。厚生労働省は、今後の発達支援推進策の一つに、ペアレントメンターを明記し大事な資源と位置づけた。このフォーラムでは、和歌山県ペアレントメンターの活動を通して、障害のある子どもをもつ家庭が求める支援のあり方について考えたい。

講 師：和歌山県福祉保健部障害福祉課 主査 赤松 弘智

和歌山県では、発達障害者支援センターポラリスを中心とし、各地域の相談事業所等において発達障害児・者やその家族に対して、重層的な相談支援体制を築くことを目指している。

ポラリスにおける相談件数は、年々増加しており、その半数以上が青年期の方の相談である。さらなる支援体制充実のため、相談支援者のスキルアップを図るための研修、身近な地域での相談体制の構築に取り組んでいる。また、発達障害児・者の社会生活への適応訓練のためのプログラム（どんまいプログラム）などの企画・実施も行っている。

より身近な地域での相談体制として、和歌山県では、平成 25 年度からペアレントメンター養成の実施を行ってきた。発達障害の子どもがいる保護者が研修を受け、同じ親として精神的支えになることを目指したものである。平成 27 年度からペアレントメンターとして、グループ相談会や保護者会の場へ行き活動を行っている。

講師：和歌山県自閉症協会会長・和歌山県ペアレントメンター協会 大久保尚洋

自閉症の子ども二人を育ててきた。子どもが幼少の頃は、障害児に対しての社会的認知度が低く、障害児医療を行っている病院も少なかった。また、預かってくれる保育園もなく、多動の子どもを抱え大変苦労しながらの子育てだった。自分と同じ悩みをもった家族との交流の中で、何とかしたいとの思いから、今の活動を行うようになった。

親が求める支援は、この子には「できない」と決めつけて、その子の芽をつんでしまう支援ではない。色々な経験をさせて、その子の可能性を伸ばすような支援をしてほしい。そのなかで、危険を察知する能力、金銭感覚を身につけることなどを学んでほしい。親亡き後、自分の思いをうまく伝えられない子どもの、金銭管理、余暇の楽しみ、食事などの支援に気を配ってほしい。家族として、可能なかぎり、子どもの行きたいところに行ったり、好物を食べたりと、楽しい時間や思いを味わえる生活をさせてほしいと願っている。「平等な支援」より一人ひとりに応じた「必要な支援」を求めている。

質疑応答

① サポートブック、リソースブックとは何か。

A サポートブックは子どもの特性や配慮事項などについて書いてあり、お助けブックのようなもの。年齢と共に更新していく。初めての支援者にわかりやすく、迷子になったときなどアクシデントが生じた場合にも役立つ。リソースブックは、障害のある子どもや親が利用しやすい、地域の社会資源の情報を書いている。障害をもった子が生活をしやすくなることを目指している。

② 保護者対象相談会が年 1 回では少ないのではないかと。親の悩みは深いので定期的を開催してはどうか。

A 相談会は依頼があれば開催している。まだ 2 年目なので手探りの状態である。

参加者の感想より

- ・ペアレントメンターの取組みがよく分かった。
- ・保護者にしかわからない悩みや困り感を相談できるペアレントメンターの存在はとても大きいと思う。
- ・大久保さんのお話を聞いて、改めて小学部からのキャリア教育が大切だと感じた。
- ・家族に対する支援は、少ないのが現状だと感じている。学校現場でも積極的に行っていく必要があると思う。
- ・親御さんの率直な体験談を聞いて、胸がいっぱいになりました。親が求める支援として挙げられていた点についても、学校での支援に役立てたいと思う。